事例No.	2817
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	川村　美津子

事例区分	地域活性化

タグ	・福祉・介護 ・地域運営組織 ・人材確保・育成

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

地域のみんなを“ごちゃまぜに”地域共生社会実現プロジェクト

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　個人表彰



地域のみんなを“ごちゃまぜに”地域共生社会実現プロジェクト

川村（かわむら） 美津子（みつこ）氏

DATA

事　例　名：地域のみんなを“ごちゃまぜに”地域共生社会実現プロジェクト
所　在　地：滋賀県長浜市常喜町885
連　絡　先：TEL 0749-57-6777
FAX 0749-57-6786
E-mail careplan-tudoi@topaz.plala.or.jp
ホームページ：https://chitoteto.net/

取り組みの概要

2011年にNPO法人を設立し、高齢者福祉事業や障がい者福祉事業をスタート。多様な人々との連携を図り、介護保険外事業を進めることで、地域共生社会の実現に向けた取り組みを進める。また、空き家や耕作放棄地などを活用しながら、高齢者や障がい者、働きづらさを抱える若者などの生きがいや働く場所をつくる100JOBプロジェクトを展開。持続的で安定的な居場所を提供するために、農業に限らない年間を通じた事業展開を進めている。

評価された点

●介護保険外の事業として雇用創出するなど、困難と思われる事業に取り組んでいる。今後の高齢者や障がい者の福祉については、今後行政機関だけで担うことは難しく、民間やNPO法人の力も活用すべきであり、そのモデルケース事業として評価できる。

●空き家や耕作放棄地などの眠っていた資源を活用しながら、高齢者や障がい者や若者の雇用を作っており、一人ひとりの生活や生きがいだけではなく、「助け合う地域」を作っていくための大切な活動である。

●まさにダイバーシティ＆インクルージョンのモデルであることと、地域資源をうまく活用しながら地域雇用の持続性を担保していること、そして生業の根幹である個人の「社会的な居場所」作りにおいて優れた取り組みである。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　1998年～

ソーシャルワーカーへの憧れ
・ヘルパー取得時の講師の影響を受け、ソーシャルワーカーを目指す。

・地域に活用されていない畑が増加。

2011年～

NPO法人集設立（後に「つどい」に改名）
・空き倉庫を改修しケアプランつどいを開設し、介護支援専門員の資格を活用した活動をスタート。同年10月デイサービスつどい開設。



2012年～

宅老、福祉農園事業
・介護保険外事業をスタート。福祉農園としてサツマイモ畑開設。



・高齢者福祉事業の定員が不足。地域から空き家の活用を促す声も。

・高齢者よりあいどころ事業として市と連携。

2015年～

多世代が寄り合う拠点の開設
・デイサービス七条つどいを開設。地域の交流スペースを設置。調理等の多世代交流事業を開始。



・働きづらさを抱える若者が地域課題に。

農林水産省や民間財団法人、赤い羽根福祉基金等の助成を活用。

2017年～

農福連携事業本格スタート
・B型作業所「きんたろう村のうえん作業所」を開設。
・耕作放棄地や遊休農地を活用し、蓮畑の耕作をスタート。
・年齢・性別・障がいの有無に関わらない働く場所の提供を進める100JOB事業をスタート。





2018年～

合同会社TUNAGU設立
・蓮や椎茸、せんべい事業をNPO法人へ委託。働く場を提供し自立を促す取り組みを本格化。

今後の展望

・収益の安定化はソーシャルビジネスにおいても重要だが、関わる人の幸せな姿や社会的なインパクトにも注目。そのためにも、事業をスケールアップするため、年中を通じた事業展開や、持続的なビジネスモデルの構築を進める。

受賞者のコメント

素晴らしい賞を頂き、心から感謝しています。先人たちの足跡には及びませんが、天国から見守る先輩方の思いを胸に、地域の高齢者の活力を増し、笑顔あふれる働く場を作りたいと願っています。変化を求める人々のエネルギーに触発され、新たな取り組みとして「干し芋」などの地域資源を活かした商品化に取り組んでいます。地域の元気な仲間たちと協力し、幅を広げていく活動はワクワク感が絶えません。これからもいろんな人たちと笑いながら、長浜で活動していこうと思います。